2015
平成27年度

国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

錦百人一首あづま織：式子内親王

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 National Institutes for the Humanities

Contents

はじめに 3
概要 4
事業概要 6
日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画 13
研究概要 14
国際交流 28
大学院教育 30
公開データベース 31
教員一覧 32
参考データ 34
人間文化研究機構 35

はじめに

昭和47年（1972）創設の国文学研究資料館は、品川区戸越からの移転後７年を経て、立川での事業・研究体制も軌道に乗り、創設以来継続してきた調査・収集事業、また充実した設備を生かした展示、館外の研究者との共同研究プロジェクトなどを滞りなく実施・遂行しています。

展示は当館所蔵の典籍を中心とした通常展示を軸に、来館者に当館の事業と研究の姿をご覧いただく展示に力を入れています。これによって、従来、年数回の特別展示に伴う展示替えのための休室期間を大幅に減らし、展示室の有効活用と経費節減を兼ねた運営を目指しているところです。

事業としては、向こう10年間にわたる大型プロジェクト「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」が始まって、今年は準備期間を含めた三年目にあたります。

本計画は、日本学術会議の提言「日本語の歴史的典籍のデータベース構築計画」に基づき、科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会ならびに文部科学省のご理解とご支援を得て、平成26年度に、人文社会科学系初の「大規模学術フロンティア促進事業」に認定され、昨年４月から本格的に開始したプロジェクトです。

当館では、この事業を、館創設以来の調査・収集事業ならびに古典籍総合目録データベース作成を基盤として、あらたな飛躍を目指す事業と位置づけています。ただし、国文学の古典籍を中心とした当館従来の調査・収集事業に対し、この事業は「日本語の歴史的典籍」、すなわちすべての分野の古典籍を対象とする事業です。そのような事業を円滑に進めるために、すでに医史学や和算に関して専門家のご協力のもとにワーキンググループを発足させており、さらに異分野の専門家の参加をも要請していく所存です。

大型データベースの構築については、情報学の権威、有川節夫元九州大学総長に顧問をお願いし、またシステム情報機構の国立情報学センターのご協力も仰ぐことになっています。

本計画の名称に冠せられている「国際共同研究ネットワークの構築」は、これまでに当館が学術交流協定を結んできた機関を中心に準備研究を開始しましたが、「語学が嫌いだから、日本史や日本文学を選んだ、と言っていられる時代は終わった」（上野千鶴子『国境お構いなし』）という研究環境の変化に対応すべく、より強力な国際的発信と連携の推進を目指しています。

私たちはこの「国際共同研究ネットワーク構築」を法人第三期の中期目標・中期計画の柱として推進し、大学共同利用機関としての使命に応えていきたいと考えています。

館 長　**今西 祐一郎**

概要

国文学研究資料館のめざすもの

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとするさまざまな分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来40年にわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組みます。

沿　革

昭和41年12月	日本学術会議が「国語・国文学研究資料センター（仮称）」の設置を政府に勧告。
昭和45年９月	学術審議会が「国文学研究資料センター（仮称）」の緊急設置を文部大臣に報告。
昭和46年４月	文部省に、国文学研究資料の施設の整備に関する調査等の経費計上。
昭和47年５月	国文学研究資料館創設（管理部、文献資料部、研究情報部）。 文部省史料館（昭和26年設置）が、国文学研究資料館の組織に組み入れられる。
昭和52年６月	開館式挙行
昭和52年７月	閲覧サービス開始
昭和54年４月	整理閲覧部設置
昭和62年４月	マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録データベースのオンライン検索サービス開始。
平成４年４月	国文学論文目録データベースのオンライン検索サービス開始。
平成14年11月	創立30周年記念式典挙行
平成15年４月	総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置され、基盤機関となる。
平成16年４月	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる。 法人化に伴い、館内組織を改組。
平成20年３月	立川市緑町の現在地に移転。
平成25年４月	古典籍データベース研究事業センター設置。
平成26年４月	古典籍データベース研究事業センターを古典籍共同研究事業センターに改組。

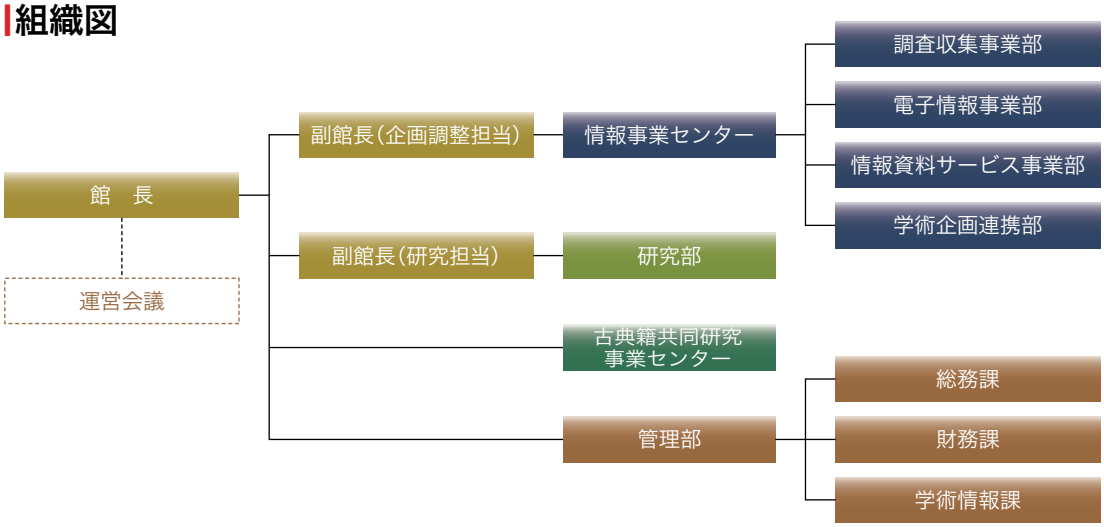
施設について

当館は、東京都区部の過密解消や、東京への諸機能の過度の集中の抑制などのために、平成元年８月及び平成５年６月の「国の機関等移転推進連絡会議」において移転が決定し、平成20年３月に品川区から立川市に移転しました。

施設は、バリアフリー対応とし、来館者の利便性を考慮した設計となっています。

来館者が利用するスペースとして閲覧室と展示室があります。閲覧室は参考図書をすべて開架にしており、広々としたスペースでゆったりと閲覧ができます。また、展示室では当館所蔵の古典籍による通常展示等を行います。

組織図



運営会議

館外委員

浅野　秀剛	大和文華館長
アレクサンドル・ドーリン	国際教養大学国際教養学部教授
井口　和起	京都府立総合資料館非常勤顧問
伊藤　早苗	九州大学応用力学研究所教授
上野　健爾	四日市大学関孝和数学研究所所長
大谷　雅夫	京都大学大学院文学研究科教授
木村　茂光	帝京大学文学部史学科教授
小島　孝之	東京大学名誉教授
中島　国彦	早稲田大学文学学術院教授
長島　弘明	東京大学大学院人文社会系研究科教授
身﨑　　壽	北海道大学名誉教授
村上　征勝	同志社大学文化情報学部教授

館内委員

大髙　洋司	研究部教授
大友　一雄	研究部教授（研究主幹）
落合　博志	研究部教授
小林　健二	研究部教授（研究主幹）
田中　大士	研究部教授（研究主幹）
谷川　惠一	副館長（研究担当）
寺島　恒世	副館長（企画調整担当）
古瀬　　蔵	研究部教授
山下　則子	研究部教授
渡辺　浩一	研究部教授

役職員

館　　長	今西 祐一郎
副館長（企画調整担当）	寺島　恒世
副館長（研究担当）	谷川　惠一

情報事業センター

情報事業センター長（併任）	寺島　恒世
調査収集事業部長	落合　博志
電子情報事業部長	古瀬　　蔵
情報資料サービス事業部長	大髙　洋司
学術企画連携部長（併任）	大友　一雄

研究部

研究主幹	小林　健二
研究主幹	田中　大士
研究主幹	大友　一雄

総合研究大学院大学文化科学研究科

日本文学研究専攻長	山下　則子

古典籍共同研究事業センター

センター長（併任）	今西 祐一郎
副センター長（併任）	山本　和明
事務室長（併任）	井深　順二

管理部

管理部長	井深　順二
総務課長	岡田　耕作
財務課長	谷口　　潤
学術情報課長	大塚　克威

事業概要

当館の事業の目的

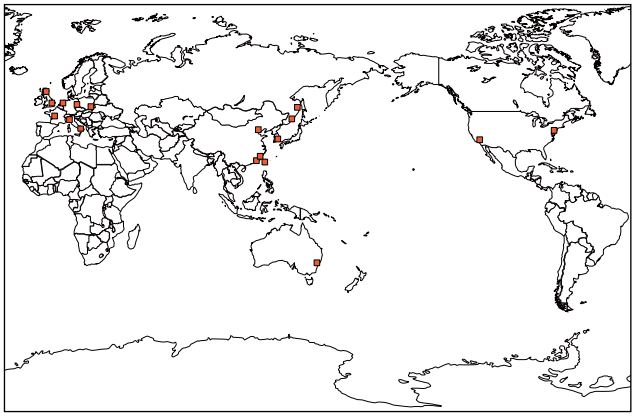
国内外に所蔵されている日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と、撮影及び原本による収集を行い、得られた所在・書誌情報を整理・保存し、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備しています。また、これらを様々な方法で国内外の利用者に提供するとともに、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。

❶ 調査収集

全国の大学等に所属する研究者約190名の調査員と連携し、日本文学及び関連する原典資料（写本・版本等）の所蔵先に赴き、書誌的事項を中心とした調査研究を行っています。

こういった調査研究に基づき、撮影許可が得られた原典資料を、マイクロネガフィルム又はデジタル画像として全冊撮影することによって収集しています。

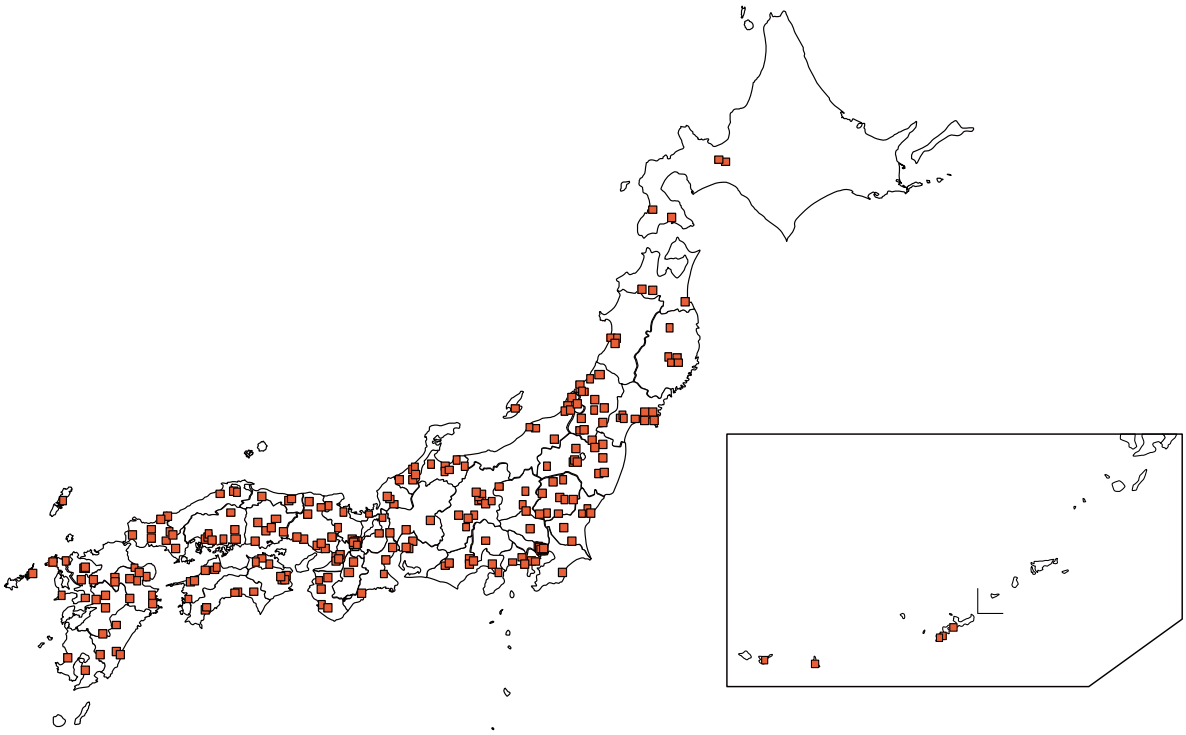
さらに、平成17年度から他大学・他機関と締結した協定に基づく連携調査を行っています。



これまでの調査・収集件数

調査	国内	1,031箇所	404,873点
	海外	67箇所	16,367点
収集	国内	380箇所	201,136点
	海外	13箇所	1,518点

全国に散在する日本文学及び関連資料の数は、おおよそ100万点と推計されており、現在その約20%がフィルム、または原本によって当館で読むことが可能になっています。



■平成26年度調査箇所一覧

北海道・東北地区
江差町郷土資料館
山形大学附属図書館
東北大学附属図書館
宮城県図書館
いわき明星大学図書館

関東地区
筑波大学附属図書館
宮内庁書陵部
東京大学文学部国文学研究室
東京芸術大学附属図書館(脇本文庫)
国立国語研究所
尊経閣文庫
鉄心斎文庫
最明寺
川越市立図書館
学校法人国際学園(眞山青果文庫)

中部地区
柏崎市立図書館
石川県立図書館(川口文庫)
富山市立図書館(山田孝雄文庫)
舟津神社
池田三郎
諏訪市博物館
浜松市立賀茂真淵記念館
浜松市立中央図書館
名古屋市蓬左文庫
名古屋市博物館
大垣市立図書館

近畿地区
津市図書館
夢望庵文庫
芭蕉翁記念館
蘆庵文庫
京都大学文学部(潁原文庫)
京都府立総合資料館
京都市歴史資料館
陽明文庫
大阪天満宮御文庫
大阪大学附属図書館(土橋文庫)
春日大社
中庄新川家
瑞光寺
聖護院
皇學館大学附属図書館(五葉蔭文庫)
貝塚御坊願泉寺

中国・四国地区
鳥取県立図書館
鳥取県立博物館
河本家稽古有文館
島根県立図書館
島根大学附属図書館
手銭記念館
岡山大学附属図書館(池田文庫)
正宗文庫
広島市立中央図書館
広島大学図書館
横山邦治
三原市中央図書館
忌宮神社
光市文化センター
萩市立図書館
鎌田共済会郷土博物館
総本山善通寺
香川大学附属図書館(神原文庫)
愛媛県立図書館
宇和島伊達文化保存会
大洲市立図書館
土佐山内家宝物資料館
徳島県立図書館(森文庫)

九州・沖縄地区
柳川古文書館
佐賀県立図書館
佐賀大学附属図書館
徴古館
祐徳稲荷神社(中川文庫等)
長崎大学附属図書館経済学部分館
長崎県立対馬歴史民俗資料館(津江文庫)
諏訪神社(諏訪文庫)
肥前島原松平文庫
松浦史料博物館
臼杵市立臼杵図書館
大分県立先哲史料館
天草上田家

近代
函館市中央図書館
八戸市立図書館
酒田市立光丘文庫
会津若松市立会津図書館
アド・ミュージアム東京
明治新聞雑誌文庫
早稲田大学図書館
学校法人国際学園(眞山青果文庫)
横浜市中央図書館
新潟県立図書館
岐阜市歴史博物館
尾鷲市立中央公民館郷土室
大阪大学附属図書館(旧制高校)
和歌山大学附属図書館(紀州藩文庫)
祐徳稲荷神社(中川文庫等)
長崎県立長崎図書館

連携調査
山梨大学附属図書館(近代文学文庫)
立命館大学図書館(人文系文献資料室)

■平成26年度収集箇所一覧

北海道・東北地区
宮城県図書館(伊達文庫)

関東地区
宮内庁書陵部

中部地区
新潟大学附属図書館(佐野文庫)
富山市立図書館(山田孝雄文庫)
金城学院大学図書館

近畿地区
蘆庵文庫
京都市歴史資料館
陽明文庫
道明寺
相愛大学図書館(春曙文庫)

中国・四国地区
鳥取県立図書館
正宗文庫
横山邦治
山口大学附属図書館(棲息堂文庫)
総本山善通寺
宇和島伊達文化保存会
大洲市立図書館
愛媛大学図書館(鈴鹿文庫)
土佐山内家宝物資料館

九州・沖縄地区
祐徳稲荷神社(中川文庫等)
肥前島原松平文庫
松浦史料博物館
長崎県立対馬歴史民俗資料館(宗家文庫)
杵築市立図書館
諏訪神社

近代
八戸市立図書館
立命館大学図書館(人文系文献資料室)
大阪大学附属図書館(小野文庫)

アーカイブズ
真田宝物館(真田家文書)
江川文庫

❷ 資料利用

当館の図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写等のサービスが利用できます。大学等に所属していない方は、直接郵送又はＦＡＸにより複写申込をすることができます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。

図書館

利用案内

利用時間	開館時間	平日	9:30～18:00（史料・貴重書の閲覧は9:30～17:30）
		土曜	9:30～17:00（史料・貴重書の閲覧は9:30～16:30）
	書庫資料閲覧受付	平日	9:30～12:00、13:00～17:00
		土曜	9:30～12:00、13:00～16:00
	複写受付	平日	9:30～16:00
		土曜	9:30～15:00
休館日			・日曜日、祝日、振替休日 ・毎月末日（月末日が土日の場合は金曜日。その金曜日が祝日の場合は直前の木曜日） ・第２第４水曜日（ただし月末日が土日の場合は第４水曜日のかわりに月の最終土曜日） ・年末年始（12月27日～翌年１月５日まで） ・保存環境整備期間（４月下旬～５月上旬） ・蔵書点検期間（３月25日～31日） ※その他、都合により臨時に休館・開館する場合があります。掲示、当館Webページで確認してください。
サービス	閲　　覧		マイクロ資料、和古書（写本・版本）、史料、活字本・影印本、全国の地方史誌、逐次刊行物（土曜日は、史料、貴重書・特別コレクション・寄託資料の閲覧には事前予約が必要）
	複　　写		電子複写（リーダープリンターによる複写も含む）・ポジフィルム　（ただし史料は除く）
	撮　　影		史料等、電子複写できない資料
	貸　　出		一夜貸しサービス（紙焼写真本の一部のみ）
	展示貸出		図書館、文書館、博物館等への貸出
	参考調査		所蔵調査・参考質問の受付、回答
	相互協力		図書館間の相互協力（ILL）による文献複写、資料貸出
問い合わせ	電　　話		利用について　050-5533-2926　情報サービス第１係 相互利用（ILL）　050-5533-2927　情報サービス第１係 歴史資料について　050-5533-2930　情報サービス第２係 資料の掲載について　050-5533-2930　情報サービス第２係
	ＦＡＸ		042-526-8607
	E-mail		etsuran@nijl.ac.jp

所蔵資料

資料種別			点数等	冊数等
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	190,740点	42,588リール
		歴史	202件	6,308リール
	マイクロフィッシュ	日本文学	16,667点	57,358枚
	紙焼写真本	日本文学	—	75,122冊
		歴史	—	11,196冊
図書	写本・版本		16,326点	56,126冊
	活字本・影印本等		—	179,941冊
	逐次刊行物		8,617誌	—
所蔵史料			484件	約500,000点
寄託資料・寄託史料		日本文学	9件	9,440冊
		歴史	17件	7,032点

代表的な所蔵資料

日本文学関係資料

【貴重書】

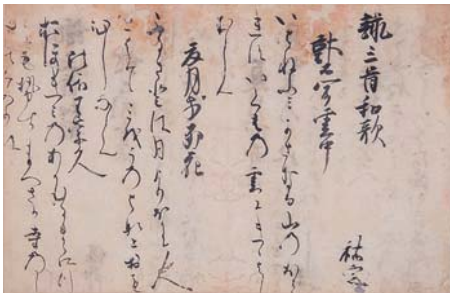
春日懐紙（重要文化財）、天和２年荒砥屋版『好色一代男』、組合せ絵入り古活字版『曽我物語』、鎌倉期写『新古今和歌集』、奈良絵本『うつほ物語』、『新古今和歌集撰歌草稿』、鎌倉期写『源氏物語』16帖ほか197点

【特別コレクション】

西下経一旧蔵の古今和歌集関係等のコレクション（初雁文庫）、作家中村真一郎旧蔵の江戸、明治の漢詩文集のコレクション（日本漢詩文集コレクション）、『徒然草』ほかのコレクション（高乗勲文庫）、『新古今和歌集』を中心としたコレクション（懐風弄月文庫）、田安徳川家伝来の日記・記録、有職故実、文学、芸術関係ほかの典籍類（田安徳川家資料（田藩文庫ほか））、明治期の政治家鵜飼郁次郎の収集による書物ならびに文書・記録類（鵜飼文庫）、重要文化財の山鹿素行著述稿本を含む典籍類（山鹿文庫）ほか21件

【寄託資料】

金子元臣旧蔵書６点、松野陽一氏蔵書104点、坂田穏好氏古筆切コレクション101点、増田コレクション6,690枚50箱ほか８件



春日懐紙（当館所蔵）

書庫

歴史関係資料

所蔵史料は近世・近代を中心に50万点に及び、地域的にはほとんどの都道府県を網羅している。

近世史料には『尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書』『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書』等の町方・村方文書が多数を占めるが、『信濃国松代真田家文書』『阿波国徳島蜂須賀文書』等の武家文書、『山城国京都三条西家文書』等の公家文書や『山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書』等の寺社文書がある。近代史料には『愛知県庁文書』『岡山県・広島県・鳥取県下市町村役場文書』等の県庁文書、戸長役場、村役場文書がある。

❸ 社会連携活動

研究成果を広く社会に還元するため、展示、講演会、シンポジウム、セミナー等、様々なイベントを開催しています。

展示

資料の調査研究や共同研究などで出された成果をもとに、１階に設置されている展示室にて開催しています。

展示室

平成27年度展示予定

通常展示

「書物で見る　日本古典文学史」

平成27年４月から秋まで開催予定

上代から明治初期までの文学を、書物（古典籍）によってたどります。最近の研究動向にも配慮をしておりますが、むしろ教科書でなじみの深い作品を中心に据えて、文学史の流れを示しました。

写本の表情や版本の風合いに触れながら、豊かな日本古典文学史の諸相をお楽しみいただけるようにしております。

また、通常展示の一部のスペースを使って、特設コーナーを設け、当館の新収資料等も展示しております。

通常展示

「和書のさまざま」

平成27年秋から開催予定

和書について、まず形態的に、次に内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色ある本を紹介し、併せて和書の性質を判断する場合の問題をいくつか取り上げており、全体を通して和書の基本知識を学ぶとともに、和書について考えるきっかけとなることをも意図しています。

これまで開催した主な展示

●特別展示「鉄心斎文庫　短冊文華展」　平成22年10月4日〜11月12日

当館でこれまで行った研究会の成果を踏まえ、多くの貴重な国文学関係資料を所蔵する鉄心斎文庫の短冊コレクションを展示しました。

●特別展示「近衞家陽明文庫　王朝和歌文化―千年の伝承」　平成23年10月8日〜12月4日

特定研究「陽明文庫における歌合資料の総合的研究」の研究成果として、陽明文庫に収蔵されている近衞家伝来の品の中から、多数の資料を展示しました。

●特別展示「鴨長明とその時代―『方丈記』８００年記念」　平成24年5月25日〜6月23日

平成24年が『方丈記』執筆800年になるのを記念して、特定研究「大福光寺本「方丈記」を中心とした鴨長明作品の文献学的研究」の研究成果により「鴨長明とその時代」をテーマに特別展示を行いました。

●常設展示「和書のさまざま」　平成25年4月1日〜平成26年3月31日

この展示では、和書について、形態的・内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色のある本を紹介しました。

また、常設展示の一部のスペースを使って、特設コーナーを設け、当館の新収資料等も展示しました。

●企画展示「渋沢敬三からのメッセージ　渋沢栄一「青淵翁記念室」の復元×渋沢敬三の夢みた世界」　平成25年9月13日〜10月14日

渋沢敬三が構想した日本実業史博物館(略称：実博)における「渋沢青淵翁記念室」資料のデータベース構築による成果を基に、渋沢史料館の収蔵史料との比較研究を実施し、「渋沢青淵翁記念室」を復元した展示を開催しました。

●**常設展示「和書のさまざま」**　**平成26年4月1日〜9月22日**

昨年度に続き、和書について、まず形態的に、次に内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色ある本を紹介しました。

●**特別展示「中原中也と日本の詩」**　**平成26年10月9日〜11月5日**

この展示では、昭和初期に活躍した詩人・中原中也（1907-1937）が、先行する詩人からどのような影響を受け、後世の詩人にどのような影響を与えたのか。日本の近現代詩史を中原中也という詩人を視座として再構成しながら、中也の詩の独自性を明らかにする展示を開催しました。

●**通常展示「書物で見る　日本古典文学史」**　**平成26年12月1日〜平成27年3月31日**

上代から明治初期までの文学を、書物（古典籍）によってたどり、最近の研究動向にも配慮をし、教科書でなじみの深い作品を中心に据えて、文学史の流れを示しました。

●**特設コーナー**　**平成26年4月1日〜平成27年3月31日**

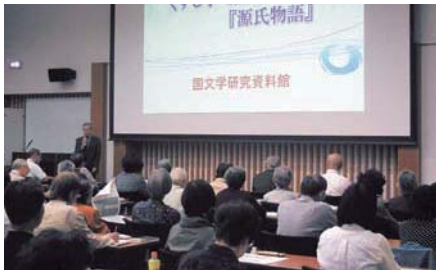
常設展示、特別展示、通常展示の一部のスペースを使って、特設コーナーを設け、当館の新収資料等を展示しました。

講演会等

⑴連続講座

日本文学の普及を図るため、一般の方を対象として、くずし字を読む講座を開催します。

平成27年度は「百人一首」を読む講座を５月〜２月に月１回、全10回行います。



平成26年度　連続講座

⑵アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員の養成のため、長期コースと短期コースを開催しています。

長期コースは、７月21日（火）〜９月11日（金）の間の計６週間、国文学研究資料館で開催し、短期コースは福岡市博物館において11月16日（月）〜11月21日（土）に開催を予定しています。

平成26年度　アーカイブズ・カレッジ長期コース

⑶「古典の日」講演会

「古典の日」は、源氏物語千年紀にあたる平成20年（2008）11月１日にちなんで、源氏物語千年紀委員会（後に古典の日推進委員会と改称）が「11月１日は古典の日」と全国に宣言したのをきっかけに法制化が実現しました。当館も記念の講演会を開催しており、平成27年度は11月１日（日）に予定しています。

平成26年度「古典の日」講演会

⑷日本古典籍講習会

国内外の日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を国立国会図書館との共催で開催しています。

平成27年度は、平成28年１月に開催を予定しています。

平成26年度　日本古典籍講習会

主要出版物一覧

当館の紹介など

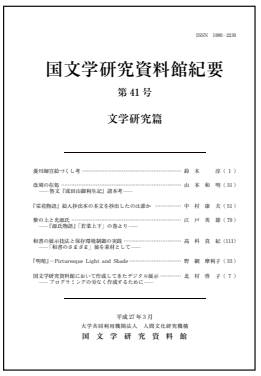
●国文学研究資料館概要
●国文学研究資料館年報
●国文研ニューズ（季刊広報誌）

国文学研究資料館年報

国文研ニューズ

研究成果

●国文学研究資料館紀要
　文学研究篇
　アーカイブズ研究篇
●研究成果報告書
●シンポジウム報告書



紀要 文学研究篇

研究成果報告書 公募共同研究「近世風俗文化学の形成」

事業関係

●調査研究報告
●史料目録
●国際日本文学研究集会会議録
●展示図録

国際日本文学研究集会 会議録

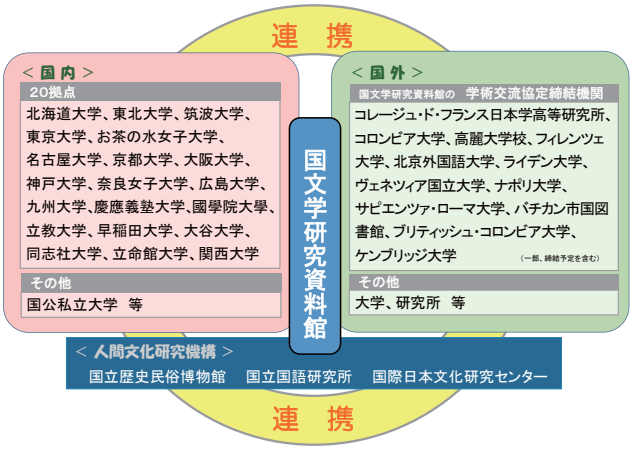
日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

本計画は、当館が中心となり、国内外の大学等と連携して、古典籍約30万点の画像化を行い、国文学研究資料館に既存の書誌データベースと統合して日本語の歴史的典籍データベースを作成し、その画像を用いた国際共同研究のネットワークを構築するものです。研究分野は国文学のみならず人文学全体、さらには自然科学の諸分野に及ぶもので、分野を超えた、横断的な研究成果が期待されます。

実施計画

平成26年度から平成35年度までの10年間で実施します。公募による共同研究も組み入れ、国際的に共同研究を展開しています。共同研究のテーマと連動させながら日本語の歴史的典籍に関するデータベースの構築を進めています。

構築したデータベースは、分野別に順次公開する予定です。



国際共同研究ネットワークのイメージ

実施体制

平成26年４月に、当館に本事業を推進するために古典籍共同研究事業センターを設置しました。当館のほか、人間文化研究機構の各機関や、国私立大学に設置する20拠点並びに国外の研究機関と連携して本事業を実施しています。

古典籍共同研究事業センターには、事業実施委員会、日本語歴史的典籍ネットワーク委員会、国際共同研究ネットワーク委員会、拠点連携委員会を置き、学識経験者や研究者コミュニティの意見をふまえて、本事業を推進しています。

期待される成果

古典籍の内容はあらゆる分野に及ぶことから、本計画の実施により諸分野にわたる学術研究の深化と新展開が期待できるほか、古典籍を活用した異分野融合研究の醸成が期待できます。

また、古典籍の画像化は、文化財危機（原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等）への対応ともなり、文化財の後世への継承に貢献できることとなります。

「人相水鏡集」

「しつか」

研究概要

資料の調査研究と国内外の諸機関との研究交流に基づき、日本文学などの基礎研究と国際研究の新たな研究の進展を図るため、以下の共同研究を行っています。この共同研究のために当館では外部委員が参加する共同研究委員会を設置しています。

基幹研究

文献資史料に関する基礎研究を進展させる共同研究で、以下の３研究課題を実施しています。

- 日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉
- 民間アーカイブズの保存活用システム構築に関する基礎研究
- 日本語の歴史的典籍データベースの検索に関する総合的研究

特定研究

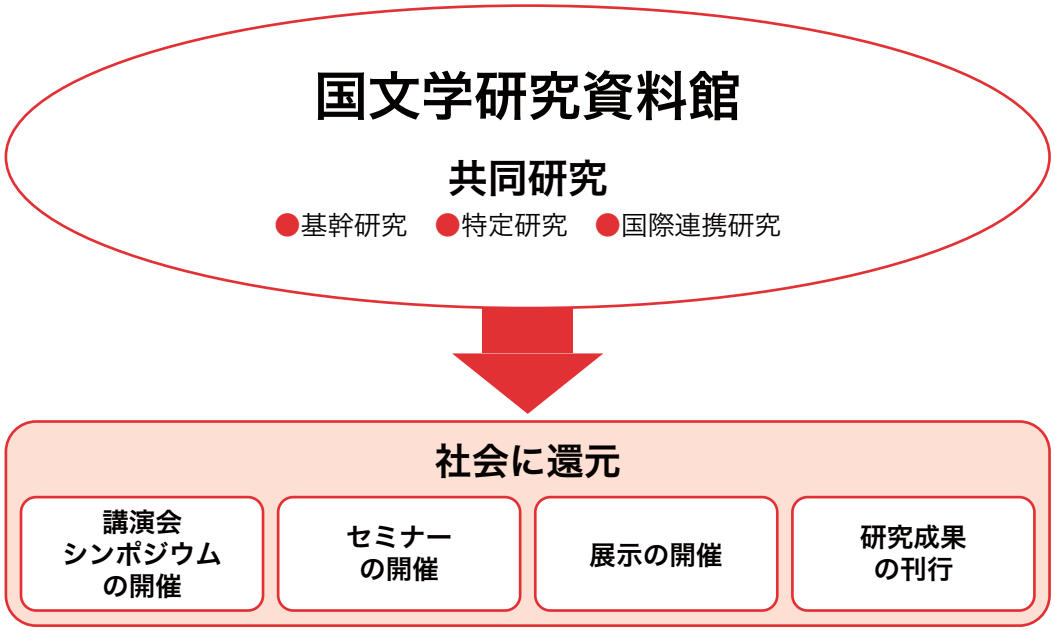
重要課題に取り組む共同研究で、以下の10研究課題を実施しています。

- 万葉集伝本の書写形態の総合的研究
- 中世古今集注釈書の総合的研究―「毘沙門堂本古今集注」を中心に―
- 日本の近世における中国漢詩文の受容―三体詩・古文真宝の出版を中心に―
- 短冊手鑑の内容と成立に関する研究
- ベトナム社会科学院所蔵旧フランス極東学院資料についての研究
- 生巧館制作による木口木版の研究―国文学研究資料館所蔵品を中心に
- 『和漢朗詠集』の伝本と本文享受の研究
- 歴史叙述と文学
- 読書―人・モノ・時空―
- 怪力乱神の文学―怪異・神秘・混乱―

国際連携研究

海外の研究者と連携して行う共同研究で、以下の研究課題を実施しています。

- 日本文学のフォルム



基幹研究

日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉

研究期間：平成25年度～平成27年度

研究代表者：寺島　恒世　教授

研究の目的

本研究は、日本の古典文学の成立や流布に果たした〈中央〉と〈地方〉の役割やその相関につき、総合的な検討を加え、新たな解明をなすことを目的とする。古代以降、我が国の文学は、都の所産であっても、さまざまな形で周辺地域から僻遠の地に至る諸国との関わりの上に成立してきた。遷都により〈中央〉は変動し、政治体制の変化や経済活動の進展に伴って〈地方〉も変容を重ね、時代の進行とともに〈中央〉・〈地方〉間の往還も活発化して、ますます多様な作品が誕生する。この共同研究では、可能な限り広い時代を視野に収め、ジャンルも韻文・散文・芸能、さらには仏教文学までを対象に解明を施すことから、上記の課題を考えてみたい。

これまでこの課題は、時代やジャンルに即し、個別に考察が加えられてきたものの、通史的、俯瞰的な解明は未だなされてはいない。積み重ねられた諸研究を総括しつつ、文献資料調査を踏まえた共同研究と、異なる時代・地域・資料を対象に方法・観点・立場等を異にする事例研究を展開し、それらを総合する作業を通して、当該課題の新たな解明を目指したいと考える。

具体的には、a関東地区、b四国地区、c九州地区の各地方を基点とする3チーム、及びd宗教の側面から接近するチームの計4チームを構成して共同研究を行う。併せて、それらを補完すべく、異なる対象に向かい、異なる取り組みをなす個別事例研究を数例展開する。

研究計画・方法（平成27年度）

最終年度にあたる当該年度の研究は以下のように進める。

ア）共同研究の推進

チームによる研究は、チームごとの研究計画に基づき、チーム代表の統括のもと、資料所蔵先に赴いて調査を進め、あるいは研究会を催す等の共同研究を進めて、シンポジウム討議のための最終検討をする。事例研究は、個々の計画に即して、資料調査と検討・分析及び考察等を進め、成果をまとめる。

イ）シンポジウム・共同研究会・講演会及びワークショップの開催

年度当初の調査員会議開催時期にシンポジウムを開催し、各チームから選ばれた代表が報告をし、それをもとに討論を行い、フロアとも議論を深める。その翌日は、最後の共同研究会を開催し、各担当から発表される成果を対象に議論をする。年度後半の10月中旬には、愛媛県宇和島市において、宇和島に伝来する伊達文化と関連させた中央と地方のテーマによる講演会及びワークショップを開催する。ともに愛媛大学との共催とし、宇和島市をはじめとする一般社会に、広くこれまでの研究成果を公表し、還元する。

研究成果の公表方法

共同研究・個別事例研究ともに、その成果は得られた段階で学術誌への投稿等により活字化し、広く公表する。

27年度（最終年度）末に、3年間の活動を総括するため、資料調査・研究会開催・公表成果の詳細等に関する活動実績の報告書を作成する。

基幹研究

民間アーカイブズの保存活用システム構築に関する基礎研究

研究期間：平成25年度～平成27年度

研究代表者：大友　一雄　教授

研究の目的

本研究は、人類が様々な活動を通じて作成・授受し、管理・保存してきた記録群のうち、特に当館の収蔵アーカイブズにおいても多数を占める民間アーカイブズを対象として、調査から編成記述を経て保存・活用にいたる一連の活動を、アーカイブズ学に立脚した視点のもとで再検討し、わが国における学術情報基盤を整備するための、準備に関わり組織するものである。

民間アーカイブズとは、国や地方自治体などの公的団体が作成・管理する公文書ではなく、家・個人もしくは多様な民間団体が作成・授受・蓄積してきた記録群をいう。公的な団体は、組織が固定的で長期継続的であるのに対し、家・個人・民間団体は柔軟で永続性に欠けることもある。したがって、公文書は組織的系統的に保存管理が可能であるのに対し、民間アーカイブズの保存管理は恣意的断片的になることが多い。しかし一方で、学術的に重要な記録群や書籍類などが民間に発生・伝来してきたことも事実であり、わが国の大きな特徴といえる。

よって、こうした特徴を持つ民間アーカイブズの保存・管理・活用に関する学術的な研究が必要とされるのであり、具体的な実践からシステム構築の基本的な考え方が追究されねばならない。

本研究では、以上の課題設定に関わり、民間アーカイブズの生成・伝来・受入・管理・保存・公開に関わる固有の特質と課題を理論的観点から検証するとともに、具体的な実践モデルとなる民間アーカイブズの調査を通じて、システム構築へ向けた基礎的な分析成果の蓄積を図る。

研究計画・方法（平成27年度）

平成27年度は、前年度と同様、「民間アーカイブズ論構築班」「民間アーカイブズ調査研究班」の２班による調査研究活動を継続する。

「民間アーカイブズ論構築班」では、調査論、伝来論、収集整理論、編成記述論、情報公開システム論、公共活用論、物理的保存管理論の７つの研究視角をもとに、年間２回程度の研究会開催を通じて、民間アーカイブズの特質と課題を析出・検討し、システム構築に向けた基本的な考え方に関する議論を深める。昨年度の議論では、民間アーカイブズの定義、保存すべき対象の範囲、民間アーカイブズを管理するための法的課題、保存公開組織、担い手などについて理解を深めるとともに多くの課題を明らかにした。平成27年度では、これらの課題についての理論的研究の進展を図るとともに、モデル研究として当館の地元である多摩地域をとりあげ、関係諸機関の協力のもと、民間アーカイブズを含む資料保存の連携態勢の構築を図り、日常および緊急時の資料の散逸・消滅を防止し保存活用を図っていくための方策について議論を深めていく。

一方、「民間アーカイブズ調査研究班」では、平成27年度に予定されている研究書の刊行を目指し、実践モデルとして設定した長野県松代地域の民間アーカイブズに関する調査と、そこで得られた研究成果の取りまとめ作業を継続する。当館と現地に分散管理することになった文書群という実践モデルの特徴を踏まえ、両者の協業による生成・伝来・受入についての基礎的分析を実施し、その成果に立脚して相互に有益な管理・保存・公開の方法を検討していく。その際には、共同データベースの構築・画像公開なども実践的課題となろう。以上の取り組みの成果は「アーカイブズ論構築班」の活動へとフィードバックさせる。また、研究成果については、研究

報告会の開催などを企画し、地域への還元を図っていく予定である。
　以上の２班の活動を通じて、理論面と実践面の双方から、より具体的かつ効果的な民間アーカイブズ保存活用のためシステムを追究する。

研究成果の公表方法

「民間アーカイブズ論構築班」の研究成果は、研究会やシンポジウムでの議論を踏まえ、紀要への論文掲載や研究書（論文集）の発行を準備する（研究書刊行は平成28年度）。
「民間アーカイブズ調査研究班」の調査研究成果は、平成27年度に研究書の刊行を予定するとともに、調査によるデータ等は、当館のデータベースや『史料目録』などへ反映させる。

基幹研究

日本語の歴史的典籍データベースの検索に関する総合的研究

研究期間：平成27年度～平成29年度
研究代表者：小林　健二　教授

研究の目的

当館が平成26年度に開始した大規模学術フロンティア促進事業、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークの構築」は、日本語で書かれた諸分野の歴史的典籍をデータベース化して、国内外に発信するとともに、画像データベースに基づく共同研究を推進し、国際共同研究ネットワークを構築することを目指している。その共同研究を円滑に遂行するためには、研究の対象となるデータベース上の画像資料を速やかに閲覧する手段が求められる。
　そこで本事業計画の開始初年度においては、画像にタグを付すこと、その作業は研究を推進する母体となる研究部において担当することを決定した。具体的には、情報系教員を除く全研究部教員によるセンター連携委員会を構成し、その構成員が各専門分野（文学・歴史）の資料につき、タグ付け作業に取り組むこととした。
　事業計画の２年目においては、文学・歴史のみならず、分野を越えた幅広い古典籍の画像についての検索が求められ、より効率的な方法とともに、分野を越えた検索のありかたを検討することが必要となってきた。
　そこで、多分野の資料を対象とした画像の検索に関する総合的な検討を行い、効率的な方法を導くことを目的として、本研究の計画を策定した。

研究計画・方法（平成27年度）

構成員が各個に担当する作業を踏まえ、定期的に研究会を催し、対象に即した検索の方法につき報告や提案を行い、最も有効な方法を得るための検討を行う。
　別に平成26年度後期から開始した医史学分野・数学（和算）分野におけるタグ付けワーキンググループ等の検討結果との比較・検討を行い、望ましい方法につき追究を重ねる。

研究成果の公表方法

研究成果は、画像データベースが公開されるに伴い、冒頭に示される検索利用方法の凡例に掲出することに

よって示される。統一的と分野個別的とを問わず、方法の改良がなされるごとに、凡例を改訂するので、成果は更新に即応して公表されることになる。

特定研究

万葉集伝本の書写形態の総合的研究

研究期間：平成26年度～平成28年度

研究代表者：田中　大士　教授

研究の目的

本研究は、万葉集の諸伝本について、主として題詞の高さ、付訓形式、訓の種類などの書写形態、ならびに種々の書き入れなどを調査し、新たな万葉集の諸本研究の基礎を築くこと、さらに、そのような研究の観点を学界に広く発信することをも目的とする。

万葉集の伝本は、本により、題詞の高さ、訓の仮名の種類、付訓形式などの違いが見られ、それらは、本文以上にそれぞれの本の伝来上の特徴と抜きがたく結びついている。また、万葉集伝本の多くには、書き入れが見られ、それらもまた、伝本間の関係を知る上では有力な証拠となる。万葉集の伝本については、大正十三年刊の『校本万葉集』（首巻）によって、個々の伝本の上記の要素については、かなり詳細な記述が為されている。しかし、それらの記述が、伝本間の分類、系統などの記述に十分に活かされていない恨みがある。また、『校本万葉集』刊行から八十年以上たった現在、最新の研究方法、調査機器を用いて、『校本万葉集』の研究成果が検証される時期に来ていると考えられる。新たな調査が求められる次第である。一方、万葉集の研究者は他の分野に比して数多くの研究者に恵まれているにもかかわらず、伝本研究を専門とする者はきわめて少ない。のみならず、学界全体として伝本研究に対する関心が希薄であり、諸本間の上記のような違いについての認識が低い。そのような現状に対して、万葉集伝本の諸特徴を、新たな観点から、系統的に、正確に、かつ簡明な形で発信し、学界で情報を共有する必要がある。

以上、本研究では、研究としては、『校本万葉集』以降、停滞していた万葉集の伝本研究を全面的に更新することをめざし、一方で、その成果を学界に発信すべく、内容を厳選し、図版を活用した解説書を作ることを目的とする。

研究計画・方法（平成27年度）

前年度の計画を引き継ぎ、以下のように進める。

1. 万葉集諸本の調査の観点を決め、調査の分担を決める。分担の調査を行う。
2. 年度前半と年度後半に、それぞれ国文学研究資料館で共同研究会を行う。担当分の調査報告とそれに対する検討を行う。
3. 共同研究会の成果を元に、概説書作成のための粗稿を作成する。各伝本の諸特徴が反映している図版を選定し、複数の原稿案を作成する。その原稿案は、最終年度に研究報告として公表する予定。

研究成果の公表方法

本研究の調査結果のうち、個々の伝本で新たに発見されたものは、担当者ごとに、各年度中に研究報告などの形で公表する。また、随時作成される解説書の原稿案についても、各年度に研究報告で公表する。一方、公

表された研究報告の中から内容を厳選した概説書については、書籍として刊行する。それは、カラーを含む図版を中心としたソフトカヴァーの、いわばハンドブックのような形を企図している。

特定研究（一般）

中世古今集注釈書の総合的研究
―「毘沙門堂本古今集注」を中心に―

研究期間：平成26年度～平成28年度

研究代表者：山本　登朗（関西大学文学部　教授）

研究の目的

近年国文学研究資料館の所蔵に帰した「毘沙門堂本古今集注」は、説話的、秘伝的な要素を強く持った中世古今集注釈書の代表的存在として知られているが、多岐にわたる要素を持ち、かつ量的にも豊富なその注記の内容、また、巻子六巻という形で伝わるこの注釈書の書物としての性格には、まだまだ精査されねばならないことがらが多く残されている。今回の共同研究は、「毘沙門堂本古今集注」が公的機関に入り、原本による直接研究が可能になったことをひとつの契機として、古今集注釈の専門家だけでなく、中世和歌や芸能、物語、説話、また日本語学（中世語、抄物研究）など、本来の専門を異にする多様な研究者が一堂に会して、幅広くさまざまな角度からこの注釈書を詳細に読み直し、「毘沙門堂本古今集注」について新しい知見を得るとともに、広く中世日本の注釈書のあり方や文化のあり方にまで考察を広げようとするものである。

研究計画・方法（平成27年度）

平成26年度に引き続き、年二回の共同研究会を開催する予定である。本年度は、参加者の設定した個別のテーマに従って研究報告を行うとともに、当該資料の含み持つ可能性、研究素材としての起爆力など、今後の利用方法についての提案やそれに対する討議も行いたい（共同研究会に本共同研究のメンバー以外の在京・関西等在住の大学院生にも積極的な参加を呼びかけるのも昨年同様）。また、資料翻刻も昨年度に引き続き継続して行い、簡単な索引を作成する。

研究成果の公表方法

各年度に、「毘沙門堂本古今集注」をテーマとする公開の共同研究会（またはシンポジウム）を開催し、それまでの研究の発表と、それについての討議の場としたい。

最終年度には、研究メンバーがそれまでの研究成果をまとめた論集に、「毘沙門堂本古今集注」の正確な翻刻・索引などを付して刊行するための原稿を取りまとめ、ひとまずの結実とするとともに、今後一層の研究深化の礎としたい。

特定研究（一般）

日本の近世における中国漢詩文の受容
―三体詩・古文真宝の出版を中心に―

研究期間：平成26年度～平成28年度

研究代表者：高橋　智（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫　教授）

研究の目的

『三体詩』は宋の周弼編、1250年（南宋淳祐10年）の成立。『古文真宝』は元の黄堅編、1366年（元至正26年）の成立。ともに集部・総集類に分類される、中国詩文の撰集として名高いもの。

例えば『おくのほそ道』の冒頭部（「月日は百代の過客にして…」）が『古文真宝後集』（李白「春夜桃李園に宴するの序」）を踏まえていることは周知の事実だが、それが江戸期に刊行された多種大量の『古文真宝』の、どの版（バージョン）に拠ったものであったのかは必ずしも分明ではない。そもそも『古文真宝』（前集・後集）は、江戸時代にいったいどのくらい刊行されたのか、版種はどのくらいあるのか。本研究では、中世に伝来し特に江戸時代の文藝に絶大な影響を与え続けた『古文真宝』と『三体詩』について、主に林望氏の旧蔵書（前者480点・後者120点ほど）を書誌学的に検討し、版種を明らかにした「目録」（冊子体）を作成する。「解題」を置くことはもちろんだがそれだけにとどまらず、江戸期における中国漢詩文受容の一端を解明した「論文」数本も添えることとしたい。

研究計画・方法（平成27年度）

平成26年度に7回（計9日）開催した研究会は、今年度は6回（計7日）開催する予定（すべて会場は国文研）。『古文真宝』の現物を前にして、書誌データの蓄積に努めたい。版種の識別には「比較」が欠かせないので、該書を所蔵する文庫を有志で訪書する。なお、欠けている版種若干を購入により補いたい。データ整理（入力）は日本漢文学専攻の院生に依頼する。院生も研究会に同席させることで、書誌学的研究の方法論を体得する機会としてもらう。

ちなみに平成28年度は、今度は主として『三体詩』をその対象に据えて、1年をかけておよそ120点ほどの書誌データを蓄積する（旅費はそのためのもの）。『古文真宝』に比べて総量が少ないので、欠けている版種若干を購入により補いたい。また、版種の識別には「比較」が欠かせないので、該書の蔵儲に富む文庫を有志で訪書する。データ入力はやはり、日本漢文学専攻の院生に依頼する。院生が研究会に同席することは前年度と同然。

研究成果の公表方法

本研究の研究成果としては、「解題」と「論文」を附載した「目録」（冊子体）を編纂刊行する。「目録」に登載しにくい個々人の研究成果については、適宜『調査研究報告』（国文研調査収集事業部）に投稿することとしたい。

因みに3年間で都合19回開催する研究会は、すべて公開。そのほとんどが、書誌データの著録という地味な作業になるが、学の継承のためにも、そうした作業に継続的に参加してくれる新たな若手の出現に期待したい。シンポは最終年度の秋にこれも公開で開催し、成果は「目録」に附載する。

特定研究（一般）

短冊手鑑の内容と成立に関する研究

研究期間：平成26年度〜平成28年度

研究代表者：中村　健太郎（帝京大学短期大学人間文化学科　助教）

研究の目的

国文学研究資料館において書誌的調査を行った個人蔵の短冊手鑑（上下２帖、毛利家旧蔵）をもとに、所収短冊の内容と筆跡、製作年代など総合的に研究することを目的とする。対象とする短冊手鑑は、中世の署名入り短冊を多く含み、近世前期までの天皇、公卿、武家などを収める。

短冊は、自詠自筆の資料が多く含まれていることから、文学研究において重要な資料である。また、筆跡や料紙装飾などの観点から、美術史学や書道史学からも注目されている。しかしながら、関連する研究分野においても、研究対象として取り上げられることは、決して多いとは言えない状況にある。これは、伝存数がきわめて膨大で、全体的な把握が困難であるという点が考えられるが、それにも増して、短冊自体の書誌的な分類や筆跡の真贋問題など、研究資料としてそのまま取り上げるには難しい問題を多く内包しており、誰もが容易に活用できるという現状ではないことが主たる原因ではないかと推測される。

以上のことから、本共同研究では、短冊資料を活用した研究の方法について、国文学や美術史学、歴史学、書誌学、書道史学などの各専門の視点から、短冊資料の問題点や研究方法を検討する。そして、短冊の形式と時代的変遷、筆者と内容、筆跡と料紙、手鑑の成立年代について明らかにし、今後の短冊資料を用いた研究方法の具体例を提示することを目的とする。

研究計画・方法（平成27年度）

平成27年度は、平成26年度に撮影した短冊資料の書影データに基づき個々の調査研究を行う。研究会および資料調査会等は３か月に一度程度、国文学研究資料館または関連資料の収蔵施設を会場として実施し、現物資料の確認やメンバー間の情報交換、研究発表を行う。また研究会では、本研究に関連する分野の研究者を招き、助言を受ける。

短冊手鑑所収の短冊資料の翻刻を含む基礎的データの作成は、点数が多いことから３年間の研究期間内で、個々のメンバーと近隣の大学院生に依頼したアルバイト作業担当者が分担し、随時作業を進める。また、本研究の対象とする短冊手鑑の一部が当館の寄託品・収蔵品となったことから、将来のwebでの画像提供を考慮し、関連する書誌的情報や短冊自体の研究方法・研究対象としての短冊利用の具体例の提示などを視野において検討を進める。

併せて、本研究に関連して他の短冊手鑑および関連資料についても調査を実施する。

研究成果の公表方法

本研究で得られた成果については、各メンバーが所属する学会（和歌文学会、中世文学会、近世文学会、書学書道史学会など）で口頭発表を行う。また、国文学研究資料館の展示室で開催される常設展示の一部を利用して、研究対象の短冊手鑑を中心に演示し、研究内容と成果の一部をわかりやすく来館者に伝えたいと考えている。最終年度には、本研究の成果として、各メンバーが担当執筆した研究論文、資料などをまとめて研究報告書を刊行する。

特定研究（一般）

ベトナム社会科学院所蔵旧フランス極東学院資料についての研究

研究期間：平成27年度〜平成29年度

研究代表者：和田　敦彦（早稲田大学教育・総合科学学術院　教授）

研究の目的

本研究は、ベトナム社会科学院（Vietnam Academy of Social Science）の社会科学情報研究所（Institute of Social Sciences Information）が所蔵する日本語文献の調査、及びその保存、公開の支援を目的とする。これらの日本語文献は、フランス極東学院（EFEO）が一九〇〇年から一九四五年にかけて収集した日本語資料（以下EFEO文献）である。同学院がフランスを離れる際に、これら資料はベトナム側に移管され、現在ではベトナム社会科学院社会科学情報研究所が管理している。EFEO文献は古典籍から近代の雑誌、書籍を含めて一万一千冊、中国語文献は三万一千冊に及ぶ。社会科学情報研究所は、フランス極東学院から引き継いだ書誌情報をもとに、これら文献目録の整備、電子化をこれまでに行ってきてはいるが、より詳細な書誌情報の作成や、電子化、公開を視野に入れた蔵書全体の分析、調査が必要である。その作業にはまた、国文学研究資料館の所蔵資料、及びデータベースの活用が不可欠となる。国文学研究資料館を共同研究の拠点として、これら蔵書の歴史、構成を明らかにするとともに、所蔵機関によるその公開を支援していく。

研究計画・方法（平成27年度）

社会科学情報研究所では、EFEO文献のより詳細な書誌情報を欲しており、また、電子化、公開にも意欲的である。本研究は、その活動をうまく支援することと並行して調査を展開する。

現地調査を行い、EFEO文献全体の概要調査を進めるとともに、希少性や保存状態をもとに文献をいくつかのレベルに分け、電子化、書誌情報作成を重点的に行う資料群を特定する。それら資料群の撮影、記録を進め、国文学研究資料館でそれらのデータを共同で分析し、書誌情報の作成や、内容のより細かい分析を行う。

研究成果の公表方法

本研究の書誌データは、社会科学情報研究所のデータベースに反映されて公開されることとなる。また、蔵書の内容、個々の文献に関する研究報告については、日本国内での学会において報告、またはシンポジウムを開催し、その成果を論文、及び報告書の形で公開する。それら成果については、本プロジェクトのウェブサイトを作成してできるだけ公開することとする。加えて、国内のみではなく現地での展示や東南アジア地域での国際会議（JSA-ASEAN）における研究報告を研究期間中に行う。

特定研究（一般）

生巧館制作による木口木版の研究
―国文学研究資料館所蔵品を中心に

研究期間：平成27年度～平成28年度

研究代表者：石井　香絵（早稲田大学文化構想学部　助手）

研究の目的

フランスで木口木版の技術を学んだ合田清は帰国後の明治21年、洋画家山本芳翠とともに生巧館を設立し、新技術による印刷業を展開した。本研究は日本に木口木版をもたらした生巧館の活動について、国文学研究資料館の関連所蔵品調査に基づき考察するものである。複製技術に様々な試みがなされた明治期において、精巧な表現を可能とする木口木版は一時流行の表現技法となった。しかしその担い手となった生巧館についての本格的な研究は未だなされていない。豊富な関連資料を有する国文学研究資料館での調査により、本のコマ絵、挿し絵、表紙など多媒体で活用された木口木版について、造形的な特質や関連する画家、生巧館と出版側との関わりなどの観点から詳細な検討を加える。また、従来の板目木版に加え銅版や石版など新しい技法が混在した近代において、木口木版がどのような用途・役割を持っていたかという点についても比較検討する。

研究計画・方法（平成27年度）

初年度は二度の研究会開催と、各人による国文学研究資料館および他機関所蔵の関連資料調査を主な活動内容とする。研究会は一度目を5、6月頃行い当該資料の調査と意見交換を目的とする。研究は基本的に個人で行う方針とし、第一回研究会をもとに各専門分野に基づいた調査研究を進める。二度目の研究会は1、2月頃行い各人の研究経過・次年度の研究計画報告の場とする。国文学研究資料館以外の調査先としては印刷博物館、新聞博物館、町田国際版画美術館、明治新聞雑誌文庫（東京大学内）、郡山市美術館、福島県立図書館、商業史博物館（大阪商業大学内）、岐阜県美術館、近畿大学中央図書館等を候補とする。

研究成果の公表方法

調査研究の成果を報告書として研究代表者・分担者とも各人で作成し、代表者が取りまとめ、未発表の論文集として国文学研究資料館印刷による冊子のかたちで提出する。なお調査研究の途中段階においても、まとまった成果として公表出来る場合は各人の判断で学術誌・商業誌への投稿、研究発表会での口頭発表等を行う。本研究の活動内容についても併せて報告書に掲載する。

特定研究（若手）

『和漢朗詠集』の伝本と本文享受の研究

研究期間：平成27年度～平成28年度

研究代表者：惠阪　友紀子　客員研究員

研究の目的

『和漢朗詠集』は平安中期に藤原公任が編纂して以降、広く親しまれ、同時に謡曲や物語など多くの作品に影響を与え、現在まで伝わる写本も数多くある。平安期に書写された完本も複数現存するため、本文研究には恵まれた状況であるが、それだけに本文の異同は甚だしい。

平安時代に書写されたものでも粘葉本系統と関戸本系統とが対立していることが明らかにされ、個々の写本についての研究は進められている。しかし、鎌倉期以降の諸本については、どのような本文が用いられ、どれほどの写本が現存しているのかといった全体像がはっきりしていない。しかし、後世の作品への影響を考えると、本作品がどう広まり、どのような本文で受け継がれてきたのかを解き明かすことは重要である。鎌倉期以後に書写された本文を含め、できる限り多くの諸本を集めて本文を比較し、読み解くことで、『和漢朗詠集』の享受史、他の作品への影響を明らかにする。

研究計画・方法（平成27年度）

本文収集・調査、校本の作成にあたっては人手が必要なため、分担者の他に、笹川勲（二松學舎大学文学部国文学科非常勤講師・國學院大學研究開発推進機構ポスドク研究員、平安朝文学・和漢比較文学の研究）、山本真由子（京都大学・院、平安時代の漢詩文と和歌の研究）、村上義明（九州大学・院、近世の和漢朗詠集の研究）の三氏を協力者としたい。

初年度は資料収集、本文翻刻を中心に行う。

室町時代ごろまでに書写された『和漢朗詠集』のテキストを可能な限り調査する。実見できる資料については実見し、写真撮影または紙焼き写真が入手できるものについては網羅的に収集する。写本の多くは奥書などがなく、年代特定は容易ではないが、書写形式・筆跡などから可能な限り時代別に整理し、分類する。また、増補詩歌抜き出し、一覧にまとめる。

研究成果の公表方法

『和漢朗詠集』の諸本分類、影響関係に関する研究については、研究発表会を開催し、研究代表者・研究分担者・協力者がそれぞれ発表する。

校本については、協力者も含めて全員で分担執筆し、研究発表会で発表した各自の研究と合わせて冊子にし、刊行する。

特定研究（課題）

歴史叙述と文学

研究期間：平成25年度～平成27年度

研究代表者：福田　景道（島根大学教育学部　教授）

研究の目的

古来より、日本の文学は歴史叙述との相互連関の中で自らの位置を測定し、ときにそれらとの緊張関係において自らを文学言説として形成してきました。

こうした歴史叙述との連関をめぐっては、これまでも、個々の作品に即して、多くの研究者により多様な見解が提出され、幾多のすぐれた知見が蓄積されてきています。

本共同研究は、個々の専門領域で行われてきたこれまでの研究が相互に交流する場を作り出し、そこから、歴史叙述と文学との関連について、より見通しのきく広い視野を展望することを目指します。

研究計画・方法（平成27年度）

〈歴史叙述と文学〉という本共同研究の包括テーマに関連し、それを構成する以下の7つの個別の研究課題を実施し、全員参加する研究会を当館において年2回開催します。第1回は5月に開催し、研究全体の調整役として研究代表者を互選で選出します。また、今後の研究全体の進め方について検討します。

・歴史物語（文芸的歴史叙述）における歴史性と文学性の相関に関する研究
・私撰国史の文献学的研究
・軍記文学における後白河院政期の歴史叙述についての研究
・平安後・末期の後宮とその文化圏に関する研究
・近世軍書における戦国の歴史叙述の研究
・民友社の歴史叙述の研究

研究成果の公表方法

個別研究課題に係る研究成果を論文としてまとめる。それらを収めたものを、平成28年度内に冊子として刊行します。

特定研究（課題）

読書　―人・モノ・時空―

研究期間：平成26年度～平成28年度

研究代表者：桜井　宏徳（成蹊大学文学部　非常勤講師）

研究の目的

パピルスや竹簡木簡、巻子から書冊といった、物質を介した＜よむ＞という人間の営みが、電子テクストの普及によって、いま有史以来の変化を迫られている。筆蹟や版面の魅力、書物の重さや感触がそのまま知識というものを実感する端緒であった時代は終わるのか。文学はもとより教育、リテラシー、あるいは出版、流通などの

問題も含め、あらためて「書を読む」行為についての根元的かつ多角的な再検討を期待する。

研究計画・方法（平成27年度）

〈読書―人・モノ・時空―〉という本共同研究の包括テーマに関連し、それを構成する以下の6つの個別の研究課題を実施し、全員参加する研究会を当館において年2回開催します。第1回は5月に開催し、研究全体の調整役として研究代表者を互選で選出します。また、今後の研究全体の進め方について検討します。

・近世における『栄花物語』読書の研究―注釈と受容を中心として―
・中古私家集を読む―歌人・言葉は時空を超えていかにつながっているのか―
・霊元天皇の古典書写と読書―禁裏本の蔵書群から―
・読書行為としての「書入れ」の研究―契沖を軸に―
・日本書紀はどのようによまれてきたか――講書・竟宴和歌・古写本から現代まで
・近世における『日本書紀』講書の研究―大山為起『味酒講記』をめぐって―

研究成果の公表方法

個別研究課題に係る研究成果を論文としてまとめる。それらを収めたものを、平成29年度内に冊子として刊行します。

特定研究（課題）

怪力乱神の文学　―怪異・神秘・混乱―

研究期間：平成27年度～平成29年度
研究代表者：未定

研究の目的

文学には、日常の理法を破壊し、見たことのない世界を開示する力がある。神話的に想像し、神秘を語り、怪異や天変を現出させる多くの作品を、時代・ジャンルを超えて広く考察したい。

神話・伝奇的物語・験記・怪談・読本・幻想小説といったジャンル、あるいは夢やエキゾティシズムの問題、天変地異のエクリチュールの問題など、多様な視点からの発言を期待する。

研究計画・方法（平成27年度）

〈怪力乱神の文学　―怪異・神秘・混乱―〉という本共同研究の包括テーマに関連し、それを構成する以下の4つの個別の研究課題を実施し、全員参加する研究会を当館において年2回開催します。第1回は5月に開催し、研究全体の調整役として研究代表者を互選で選出します。また、今後の研究全体の進め方について検討します。

・『万葉集』にみる「怪力乱神」―古代の「をとめ」を視座として―
・中世説話絵画における異形の視覚化―逸脱するものの「語り」をめぐって
・朝倉氏の御霊化と鎮魂の文学―伝承・伝説の中に息づく朝倉文化―
・狐と怪力乱神　近世演劇における怪異・神秘・混乱の探究

研究成果の公表方法

個別研究課題に係る研究成果を論文としてまとめる。それらを収めたものを、平成30年度内に冊子として刊行します。

国際連携研究

日本文学のフォルム

研究期間：平成25年度～平成27年度

研究代表者：伊藤　鉄也　教授

研究の目的

本研究は、日本文学の国際的な共同研究を促進するために、国文学研究資料館が先導的に推進するものである。

国文学研究資料館では、これまでに「国際日本文学研究集会」を毎年実施し、海外の研究者との国際交流を図って来た。そこで、従来の研究を踏まえてさらに発展させるべく、学術交流協定を締結している海外諸機関や大学との間で新たな共同研究を開始する準備に着手する。日本文学の時代や分野という領域に限らず、学際的・国際的な視野からの研究の創出を目指すものである。

研究計画・方法（平成27年度）

本研究は、各年度毎にテーマを設定し、海外から招いた研究者の研究発表及びシンポジウムを通して、海外における日本文学研究の実態を踏まえた共同研究を深める一助とするものである。

平成27年度の第3回は、「日本文学はどう訳されたか」（担当：谷川惠一）というテーマで開催する。開催時期は、平成27年12月を予定している。

海外から二人の参加を得、日本側は研究者二人と翻訳家二人を交えての研究発表とシンポジウムを実施する。研究発表は一人30分とする。

今回は、テーマが世界各国に関連することもあり、インターネットによるTV会議システムを導入したライブ中継により海外の研究者にネットで参加していただくか、ビデオレター等を活用して、幅広い情報を共有しながら実施したい。ビデオレターはインターネット回線の不具合とタイムロスを補う役割も果たすものとなる。

展示室（又は会場内）では、テーマにふさわしい館蔵の翻訳資料を用意する。日本文学に関する翻訳本が中心となる。

研究成果の公表方法

最終年度となる平成27年度のシンポジウムが終了した後に、これまでの3回分の研究発表とシンポジウムを1冊の報告書としてまとめる作業に着手する。過去2回分についての原稿は、すでに依頼済みである。

具体的な刊行媒体及び編集方法については、現在検討中である。

これによって、多くの研究者の方々との情報の共有を図ることとなる。

国際交流

日本の文学は世界中で研究されています。世界の文学研究の視野を取り入れて日本の文学を見つめることは、日本文学研究の大切な問題です。こういった認識のもとに当館では、平成20年度に学術企画連携部に国際交流室を設置し、国際交流活動の活性化を図るとともに、海外において研究集会、シンポジウムを開催するなど、積極的な活動を行っています。

❶ 学術交流協定の締結

日本文学研究の国際的な拠点として、海外の研究機関及び研究者との多様な学術交流事業を積極的に進めています。特に海外機関との学術交流協定を締結することにより、安定的かつ継続的な研究交流が実現できるように努めています。

交流の内容としては、研究者の招聘・派遣、国際研究集会の開催を中心に、共同調査、共同研究の実施、大学院生等の短期研修受入についても構想しています。

現在、以下の海外機関と学術交流協定を締結しています。

- コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所（フランス共和国）
- 高麗大学校日本研究センター（大韓民国）
- ヴェネツィア国立大学「カ・フォスカリ」アジア・地中海アフリカ学科（イタリア共和国）
- ナポリ大学「オリエンターレ」（イタリア共和国）
- サピエンツァ　ローマ大学イタリア東洋研究ディパルティメント（イタリア共和国）
- フィレンツェ大学古代・中世・ルネサンス研究及び言語学ディパルティメント（イタリア共和国）
- 北京外国語大学北京日本学研究センター（中華人民共和国）
- ライデン大学人文学部（オランダ王国）
- ブリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科（カナダ）
- コロンビア大学東アジア言語文化学部（アメリカ合衆国）

2014年３月14日にブリティッシュ・コロンビア大学と学術交流協定を締結

❷ 国際日本文学研究集会

国内外の日本文学研究者の交流を深め、また、外国人の若手日本文学研究者の育成をも視野に入れ、日本文学研究の発展を図るため、毎年秋に開催しています。

平成27年度は11月14日（土）～15日（日）に第39回国際日本文学研究集会を開催します。また、２日目午後に「越境する日本文学（仮）」というテーマでシンポジウムを実施します。若手の研究者や外国人研究者がより参加しやすくするために、研究発表・ショートセッション発表およびポスターセッション発表の３つのセッションにおいては、テーマを設定しないこととします。なお、ポスターセッション発表は、英語による発表も可能とします。

研究発表

❸ 国際シンポジウム等

日本文学及び関連領域について、海外の研究者や研究機関と連携し、国際シンポジウム等を開催しています。

国際研究集会「日本古典籍における【表記情報学】」

日本文学国際共同研究集会「日本文学のことばの力」

最近開催した主な国際シンポジウム

日本古典籍（くずし字）講習会
平成26年５月22日～５月24日　コロンビア大学（アメリカ）

第６回日韓古典籍研究交流会
平成26年７月29日　韓国国立中央図書館（韓国）

国際シンポジウム「男たちの性愛―春本と春画と―」
平成26年12月６日　国文学研究資料館（日本）

国際研究集会「日本古典文学の可能性と異文化の交響」
平成26年９月26日　ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）

❹ 海外研究者との交流（外国人研究員・外来研究員）

日本文学研究の国際化を促進するために、広く海外において第一線で活躍する日本文学及びその周辺の研究者を外国人研究員（客員教授、客員准教授）として招聘し、学術資料の利用及び人材交流の場として当館を提供している。また、海外の研究者等の要請に応じ、当館を拠点にして学位論文執筆や様々な研究活動を行う者を外来研究員として受け入れている。

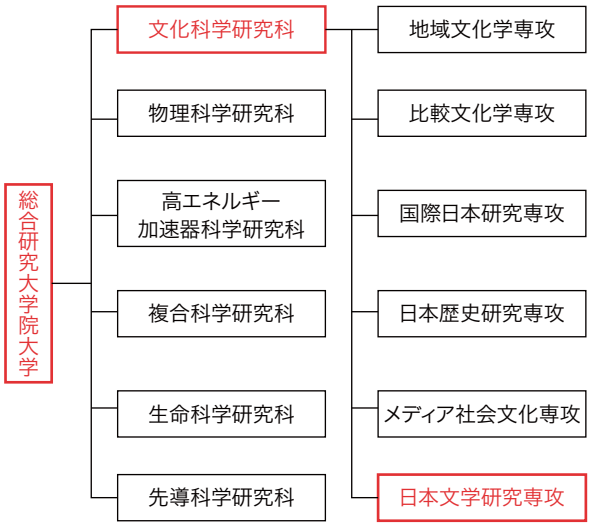
【平成27年度外国人研究員】
Willy F. Vande Walle（ルーヴァン大学　東洋学部　教授）
招聘期間：平成28年１月１日～平成28年３月31日（３ヶ月間）
研究内容：第一次大戦終戦後におけるルーヴァン大学への日本図書寄贈の歴史的・書誌学的研究

大学院教育

総合研究大学院大学文化科学研究科 日本文学研究専攻

国文学研究資料館は、総合研究大学院大学（本部は神奈川県葉山町）文化科学研究科日本文学研究専攻の基盤機関となっています。

本専攻は、平成15（2003）年度に設置され（入学定員各学年３名）、博士後期課程（ドクターコース）のみの教育研究を行っています。国文学研究資料館が豊富に所蔵している原典資料を文化情報資源として位置づけ、これを活用して、書物及び作品としての特質や、隣接諸学との関連などを総合的に研究することを通じて、専門研究者を育成することを目的としています。



平成26年度春季
学位記授与式

特別共同利用研究員制度

国公私立大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、学生の研究指導を行っています。

この目的のため、昭和54年度から大学院教育協力制度を発足させ、大学院生の受入れを開始し、平成10年度から特別共同利用研究員として受入れの拡充を図りました。

大学院に在籍し、日本文学、歴史学及びこれらに関連する分野を専攻する者を受入対象とし、毎年10人程度を受け入れています。受入期間は、原則として１年間です。

（単位：人）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
受入人数	6	11	8	6	5

公開データベース

日本文学及びその関連領域研究のため、当館では様々なデータベースを作成しています。
平成27年４月１日において、以下のデータベースを当館Webサイトの電子資料館のページ（http://www.nijl.ac.jp/pages/database/）から公開しています。

図書・雑誌所蔵目録（OPAC）	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌（逐次刊行物）の目録。
国文学論文目録データベース	国文学関係論文（大正元年～平成24年）の目録。
日本古典籍総合目録データベース	日本の古典籍の書誌・所在情報を、著作・著者の情報（典拠情報）とともに提供する総合目録。
所蔵和古書・マイクロ／デジタル目録データベース	当館所蔵の和古書とマイクロ/デジタル資料（国内外の大学・図書館等所蔵の古典籍を当館が収集）の目録。
日本古典資料調査データベース	当館が調査してきた国内外の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出。
近代書誌・近代画像データベース	明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。
明治期出版広告データベース	近代日本の出版事情を探ることを目的とし、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成。
大系本文（日本古典文学・噺本）データベース	『日本古典文学大系』（旧版、岩波書店刊）（利用登録制）と『噺本大系』（東京堂出版刊）の全文検索とテキスト閲覧。
古典選集本文データベース	二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語の当館蔵書底本テキストの全文検索と画像閲覧。
歴史人物画像（古典キャラクター）データベース	国書古典籍中の絵入り叢伝から、主に明治以前の古典キャラクターの人物画像を収録。
連歌・演能・雅楽データベース	連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添え、セットにして公開。
コーニツキー・欧州所在日本古書総合目録データベース	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報。
新奈良絵本データベース	当館所蔵の奈良絵本（19本）の原本画像を公開（翻刻付）。
収蔵歴史アーカイブズデータベース	史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料（アーカイブズ）の概要及び目録を収録。
古事類苑データベース	日本の古代から近世までの制度・文物・社会に関する百科事典『古事類苑』大正洋装本のデータベース。
古典学統合データベース（地下家伝・芳賀人名辞典）	日本の古典研究に関わる人物情報を収録。現在、『日本人名辞典』と『地下家伝』を搭載。
史料情報共有化データベース	国内外で公開されている資料群（アーカイブズ）情報（歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築）。
和刻本漢籍総合データベース	当館収集のマイクロ資料中の和刻本の序跋刊記情報と所蔵和刻本の画像等を収録。
古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報。
アーカイブズ学文献データベース	アーカイブズ学に関する国内研究文献データベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。
日本実業史博物館コレクションデータベース	日本実業史博物館準備室旧蔵資料のうち絵画・器物・広告の資料情報と画像を公開。
館蔵神社明細帳データベース	当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格等を収録。
伊豆韮山江川家文書データベース	財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。
伝記解題データベース	当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収載されている人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収載されているかをデータベース化。
日本文学国際共同研究データベース	海外の研究論文目録や論文画像、翻訳作品等を公開。
史料所在情報データベース	国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報（詳細版は利用登録制）。
蔵書印データベース	当館所蔵の古典籍を中心に、原本から採取した蔵書印情報を印影とともに収録。
増田太次郎広告コレクションデータベース	増田太次郎氏が収集した広告類の主要部分の書誌情報・画像を公開。
近世話彙カードデータベース	故松崎仁氏の手書きのノート・メモをそのまま収録した歌舞伎・浄瑠璃用語など約15万枚の近世語彙カードのデータベース。
所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	平成23年度科学研究費補助金に基づく広島大学附属図書館所蔵「読本」コレクションの画像公開。
在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ	日本の古典籍を所蔵する日本国外の機関の連絡先、閲覧の可否等の情報を英語（一部日本語も有）で提供。

教員一覧（平成27年４月１日現在）

館長

氏　　名		研　究　内　容
今西　祐一郎	IMANISHI Yuichiro	平安時代文学史の諸問題

研究部教員

氏　　名		職　名	研　究　内　容
寺島　恒世	TERASHIMA Tsuneyo	教授 副館長（企画調整担当）	中世和歌文学の研究・歌論史と歌語の研究・中世日記文学の研究
谷川　惠一	TANIKAWA Keiichi	教授 副館長（研究担当）	近代文学成立期の研究
大友　一雄	OTOMO Kazuo	教授 （研究主幹）	近世日本における社会構造の研究、近世史料学の研究
小林　健二	KOBAYASHI Kenji	教授 （研究主幹）	室町期文芸（能・狂言、幸若舞曲、お伽草子など）の研究
田中　大士	TANAKA Hiroshi	教授 （研究主幹）	万葉集の伝本、古筆切の研究
伊藤　鉄也	ITO Tetsuya	教授	中古物語の研究、特に『源氏物語』に関する研究
大髙　洋司	OTAKA Yoji	教授	近世小説、特に〈よみほん〉の様式的把握
落合　博志	OCHIAI Hiroshi	教授	中世文学・中世芸能の研究、古典籍書誌学の研究
神作　研一	KANSAKU Ken-ichi	教授	近世和歌と古典学
齋藤　真麻理	SAITO Maori	教授	中世文学の研究
陳　　捷	CHEN Jie	教授	書物交流論
古瀬　　蔵	FURUSE Osamu	教授	情報処理システムの国文学への応用の研究
山下　則子	YAMASHITA Noriko	教授	近世文学・芸能の研究。特に絵本・浮世絵を対象とし、四世鶴屋南北作歌舞伎の作品研究も行う。
渡辺　浩一	WATANABE Koichi	教授	近世都市の社会構造、アーカイブズ史
相田　　満	AIDA Mitsuru	准教授	中古・中世日本文学、幼学書を中心とする学問・注釈学、説話文学、人文情報学
青木　　睦	AOKI Mutsumi	准教授	史料保存に関する研究
青田　寿美	AOTA Sumi	准教授	日本近代文学、特に明治大正期の評論・小説の研究
入口　敦志	IRIGUCHI Atsushi	准教授	近世文学研究
海野　圭介	UNNO Keisuke	准教授	中世文学・和歌文学の研究、禁裏公家を中心とした古典学に関する研究
太田　尚宏	OTA Naohiro	准教授	近世日本における地域行政の研究、近世史料学の研究

氏　　名		職　名	研　究　内　容
加藤　聖文	KATO Kiyofumi	准教授	近代以降の東アジアと日本との関係
小山　順子	KOYAMA Junko	准教授	古典和歌を中心とする韻文学の研究
西村　慎太郎	NISHIMURA Shintaro	准教授	天皇・朝廷・近世文化・身分制の研究。歴史的アーカイブズの地域保存
野本　忠司	NOMOTO Tadashi	准教授	国文学研究における情報利用の高度化に関する研究
江戸　英雄	EDO Hideo	助教	中古文学、特に物語文学の研究
恋田　知子	KOIDA Tomoko	助教	中世文芸の研究
野網　摩利子	NOAMI Mariko	助教	夏目漱石研究、文学理論、日本近代における古典思想の受容
丸島　和洋	MARUSHIMA Kazuhiro	特任助教	中近世移行期大名権力論

研究部客員教員及び外国人研究員（平成27年度招聘予定者分）

氏　　名		職　名	研　究　内　容
早川　和宏	HAYAKAWA Kazuhiro	客員教授	アーカイブズと法制に関する研究
原田　敦史	HARADA Atsushi	客員准教授	軍記物語における〈中央〉と〈地方〉の問題
ｳｨﾘｰ F. ヴァンドゥワラ	Willy F. Vande Walle	外国人研究員 （客員教授）	第一次大戦終戦後におけるルーヴァン大学への日本図書寄贈の歴史的・書誌学的研究

古典籍共同研究事業センター教員（平成27年４月１日現在）

氏　　名		職　名	研　究　内　容
今西　祐一郎	IMANISHI Yuichiro	センター長 （併任）	平安時代文学史の諸問題
山本　和明	YAMAMOTO Kazuaki	副センター長 特任教授	19世紀文学の研究
北村　啓子	KITAMURA Keiko	准教授	人文科学分野を対象とする情報科学理論の研究
金田　房子	KANATA Fusako	特任准教授	近世俳諧の研究
岩橋　清美	IWAHASHI Kiyomi	特任准教授	近世地域文化史研究、史料管理史研究
井黒　佳穂子	IGURO Kahoko	特任助教	中世から近世初期にかけての絵巻・絵入り本に関する研究
竹田　正幸	TAKEDA Masayuki	客員教授	古典籍データベースシステム構築に関する研究

参考データ

職員・予算・施設（平成27年度）

職員	（単位：人）
館　　長	1
教　　授	14
准　教　授	11
助　　教	3
特 任 教 授	1
特任准教授	2
特 任 助 教	2
事務系職員	37
合　　計	71

予算	（単位：千円）
収入	1,167,784
運営費交付金	1,157,351
自己収入	10,433
支出	1,167,784
教育研究経費	727,149
一般管理費	440,635

施設	（単位：m²）
建物面積　専有面積	13,002
上記の内	
閲覧室	1,612
書庫・収蔵庫	2,416
展示室	355

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）（平成27年度）

（単位：円）

研究種目	審査区分	研究代表者	研究課題名	直接経費	
基盤研究（A）	一般	今西祐一郎	日本古典籍における表記情報学の発展的研究	9,000,000	
基盤研究（A）	一般	相田　満	和漢古典学のオントロジモデルの高次・具現化	4,200,000	
基盤研究（A）	一般	伊藤　鉄也	海外における源氏物語を中心とした平安文学及び各国語翻訳に関する総合的調査研究	5,600,000	※
基盤研究（B）	一般	入口　敦志	東アジア（日・中・韓）の絵入り刊本成立と展開に関する総合研究	3,100,000	
基盤研究（B）	一般	古瀬　蔵	多元知識の活用による日本文学情報ナビゲーションの研究	2,300,000	
基盤研究（B）	一般	加藤　聖文	ソ連軍接収関東軍文書に関する日露共同研究	4,100,000	
基盤研究（B）	一般	海野　圭介	金剛寺聖教・文書類を基盤とした社寺ネットワークの解明とその蔵書史的研究	3,900,000	
基盤研究（B）	海外学術調査	山下　則子	在外絵入り本を中心とする書誌・出版・解釈の総合的研究	2,400,000	
基盤研究（C）	一般	藤島　綾	本文と絵画を通じて形成された伊勢物語場面理解の研究	600,000	
基盤研究（C）	一般	海野　圭介	黒川家旧蔵資料の書誌的調査に基づく古典学の形成と知識流通に関する調査研究	事業期間延長	
基盤研究（C）	一般	恋田　知子	尼寺の文芸文化と物語草子・仮名法語における相互連関の研究	1,100,000	
基盤研究（C）	一般	武井　協三	17 世紀歌舞伎の演技・演出－文献資料・絵画資料・民俗資料による総合研究－	600,000	※
基盤研究（C）	一般	北村　啓子	拡張現実技術を利用しデジタル展示と展示原本とを連続的に融合するための基礎技術開発	1,000,000	
基盤研究（C）	一般	陳　捷	『古逸叢書』の編纂・出版およびそのテキストの研究	1,400,000	
基盤研究（C）	一般	石澤　一志	中近世期における九条家蔵書の形成と流伝に関する研究	1,000,000	
基盤研究（C）	一般	田中　大士	万葉集仙覚校訂本作成過程の解明に関わる万葉集諸伝本の包括的研究	1,100,000	
基盤研究（C）	一般	小林　健二	『舞の本絵巻』を中心とした幸若舞曲の絵入り本の調査研究	900,000	
基盤研究（C）	一般	齋藤真麻理	中・近世日本における中国明代日用類書の変成―異類・異界表現を中心に―	1,000,000	
基盤研究（C）	一般	野網摩利子	夏目漱石によるイギリス受容―小説理論の構築の一環として	500,000	※
基盤研究（C）	一般	神作　研一	近世歌合の総合的調査・研究	1,100,000	
基盤研究（C）	一般	山本　和明	古典籍をめぐる幕末明治期における人的交流に関する基礎的研究	1,000,000	
基盤研究（C）	一般	太田　尚宏	近世・近代移行期における森林政策アーカイブズの研究	1,300,000	
挑戦的萌芽研究		加藤　聖文	第二次世界大戦期における中立国外交文書のアーカイブズ学的研究	900,000	
挑戦的萌芽研究		相田　満	観相資料の学際的研究―マンガも視野に入れた古籍観相資料の分析と応用―	1,100,000	
挑戦的萌芽研究		海野　圭介	田安徳川家旧蔵の入木道伝書の分析を起点とした社会知の生成と流通に関する研究	1,200,000	
挑戦的萌芽研究		伊藤　鉄也	視覚障害者と共に古写本の仮名文字を読み日本古典文化を共有するための挑戦的調査研究	1,200,000	
若手研究（B）		丸島　和洋	古代～近世初期筆写史料の情報資源化の研究―小杉榲邨『徴古雑抄』を対象として―	1,200,000	
若手研究（B）		高科　真紀	LED による紙資料展示照明の管理に関する検証研究	900,000	
若手研究（B）		小山　順子	戦国時代禁裏文芸の総合的研究	500,000	
特別研究員奨励費		野上　潤一	中世末期・近世初期学問史の基礎的研究―中世後期学問史研究の基盤構築のために―	800,000	
特別研究員奨励費		野村　亞住	季吟門連句の研究	未定	
学術図書		相田　満	時空間とオントロジで見る和漢古典学	1,000,000	
学術図書		大野　順子	新古今前夜の和歌表現研究	2,000,000	
研究成果データベース		大高　洋司	日本古典籍総合目録	2,000,000	
研究成果データベース		伊藤　鉄也	日本文学研究論文の総合目録データベース（大正・昭和・平成）	3,100,000	
研究成果データベース		山本　和明	所蔵機関との連携による日本古典籍データベース	5,200,000	

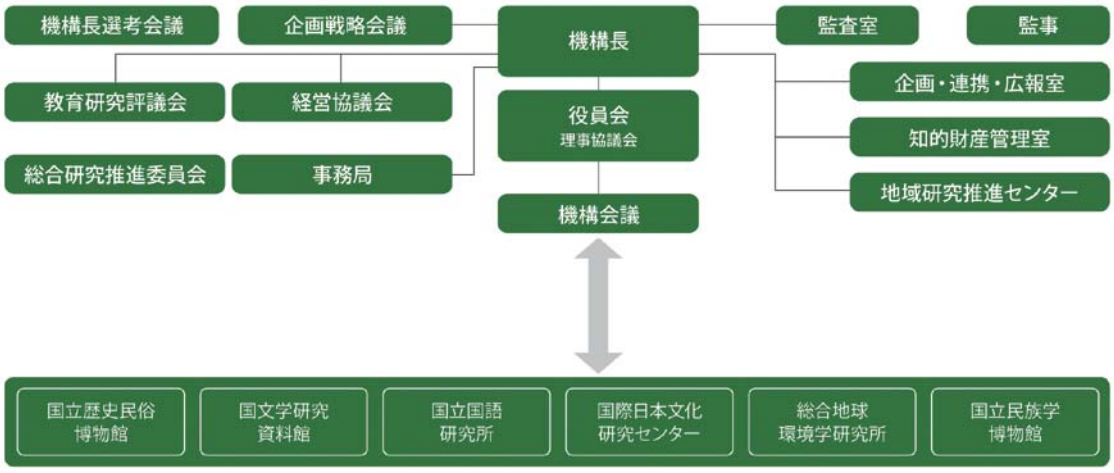
※　前年度までに前倒し済みの金額も含む。

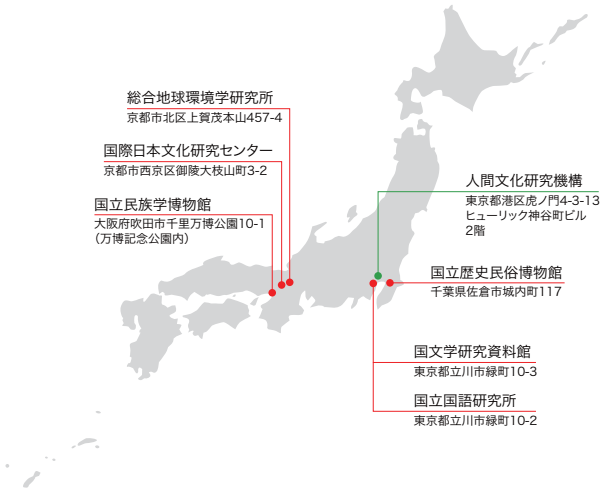
大学共同利用機関法人
人間文化研究機構
National Institutes for the Humanities

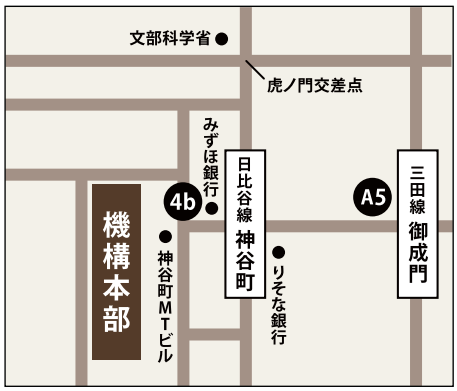
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構は、平成16年(2004)4月1日に設立され、当初は、人間文化にかかわる大学共同利用機関である、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所および国立民族学博物館の5つの機関で構成されていました。また、平成21年(2009)10月1日には、新たに国立国語研究所が加わり、現在は、6つの機関によって構成されています。

機構は、これらの6つの研究機関が、それぞれの設立目的を果たしながら基盤研究を進めるとともに、学問的伝統の枠を越えて相補的に結びつき、自然環境をも視野に入れた人間文化の研究組織として、大学共同利用の総合的研究拠点を形成するものです。

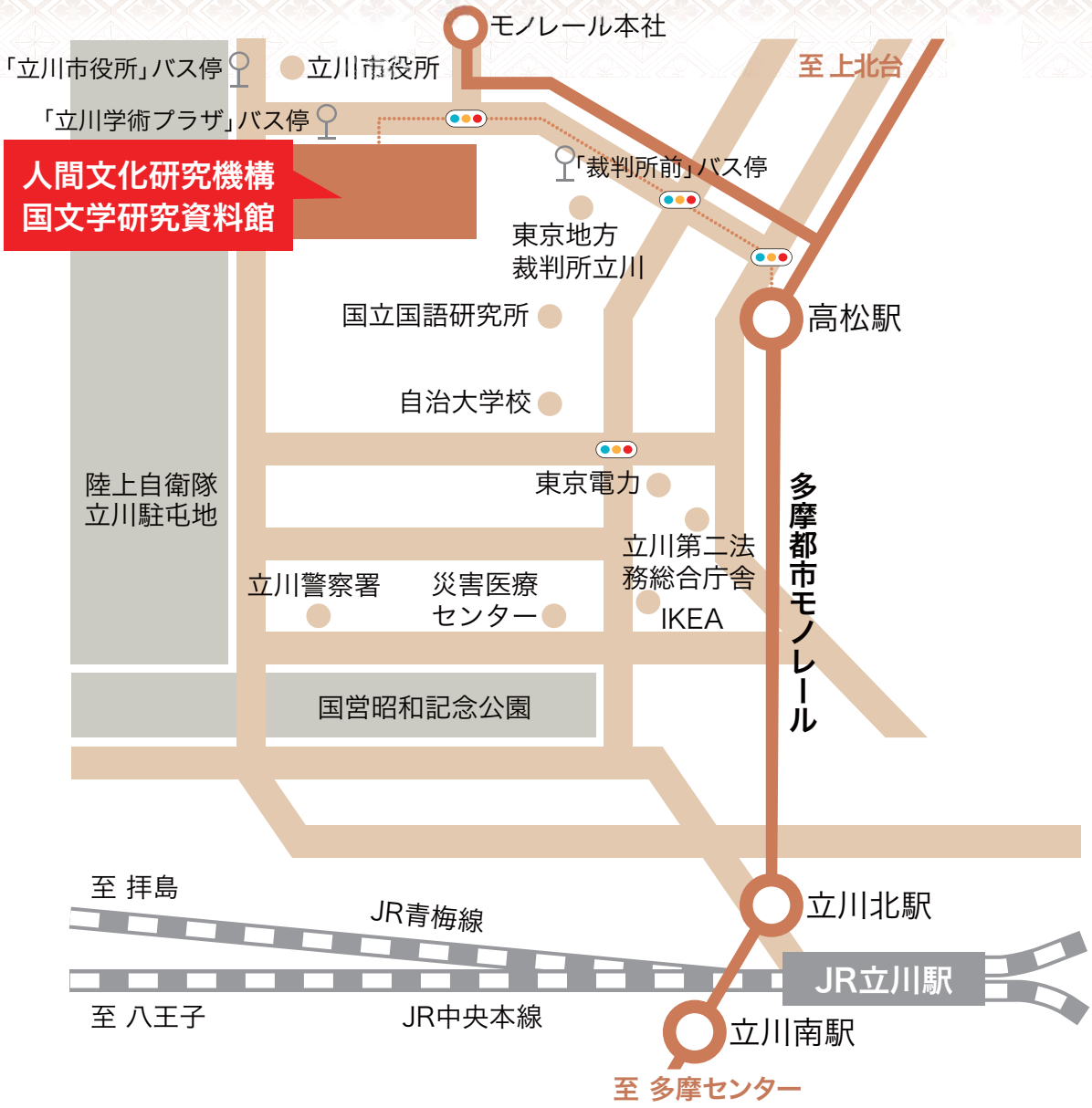
また、膨大な文化資料に基づく実証的研究、人文・社会科学の総合化をめざす理論的研究など、時間・空間の広がりを視野に入れた文化にかかわる基礎的研究はもとより、自然科学との連携も含めた新しい研究領域の開拓に努め、人間文化にかかわる総合的学術研究の世界的拠点となることをめざしています。







人間文化研究機構本部
TEL.03-6402-9200(代表) FAX.03-6402-9240 http://www.nihu.jp/



交通のご案内

多摩都市モノレール利用の場合
JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

立川バスの場合
JR立川駅北口2番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分
JR立川駅北口1番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分
JR立川駅北口2番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

徒歩の場合
JR立川駅下車、徒歩約25分

自動車利用の場合
中央自動車道「国立府中IC」から約15分
※無料駐車場あり

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3
TEL:050-5533-2900
FAX:042-526-8604
http://www.nijl.ac.jp/

National Institute of Japanese Literature (NIJL)
National Institutes for the Humanities
Address:10-3 Midori-cho, Tachikawa city, TOKYO 190-0014, Japan
TEL:+81-50-5533-2900
FAX:+81-42-526-8604